第３章　新市建設の基本方針

１．将来像

阿蘇中部３町村は、世界最大級のカルデラを有する雄大な阿蘇の自然景観、伸びやかに広がる田園風景、阿蘇神社などの歴史遺産や暮らしに根付いた文化・伝承等、数々の優れた資源に恵まれた地域です。また、阿蘇地域の中心にあって、九州の南北、東西交流の拠点に位置し、県内でも最大の観光入込みを誇っています。

このような阿蘇３町村の地域の優位性をもとに、アンケート調査等による住民意向を踏まえて、新市の将来像を、***「緑いきづく火の神の里～豊かな自然と笑顔あふれる国際環境観光都市を目指して～」***と設定いたしました。

新市の将来像の実現にあっては、地域の特性を活かしながら、均衡のとれた新しいまちづくりを進めることを施策展開の基本としています。また、基本施策の展開においては、年齢や性別、能力等にかかわらず、誰もが安心して暮らせる環境づくりを目指す「ユニバーサルデザイン」の考えを導入します。

新市建設計画の基本施策は、**「阿蘇の自然と共生する環境都市づくり」「元気あふれる産業の育成」「魅力あふれる大阿蘇の観光地づくり」「笑顔でつなぐ情報通信のまちづくり」「安心して暮らせる快適なまちづくり」「個性あふれる生涯学習都市づくり」「住民参加による自立したまちづくりの推進」**の７つを新しいまちづくりの基本施策としています。

基本施策と展開の方針は、以下のとおりです。

1. 阿蘇の自然と共生する環境都市づくり

阿蘇の自然と共生する環境都市を目指して、豊かな自然を財産として守り、育み、環境に配慮したまちづくりを進めます。

2. 元気あふれる産業の育成

地域の様々な資源を活かして、農業と商工業と観光が連携した総合的な産業の振興を図り、活力あるまちづくりを進めます。

3.魅力あふれる大阿蘇の観光地づくり

地域の個性を活かしつつ連携して、阿蘇の総合的な観光地づくりを進めます。また「食と農と環境」をテーマにした魅力あふれる観光を推進します。

4.笑顔でつなぐ情報通信のまちづくり

地域の主要な施設等を結ぶ、利便性の高い情報通信体系を築き、幅広く住民サービスを展開していきます。また産業や福祉など様々な分野に情報通信技術を活用したまちづくりを進めます。

5.安心して暮らせる快適なまちづくり

ユニバーサルデザインの観点から、障がいの有無、年齢、性別等に関係なく、誰もが安心して暮らせるように、保健・医療・福祉の充実や、防災・防犯に配慮した生活基盤整備を進め、地域の連携を強化し、安全で快適な生活空間の形成を推進します。

6.個性あふれる生涯学習都市づくり

個性にあふれ、健全で豊かな人材の育成に向けて、地域に密着した教育とスポーツの振興を図ります。また、生涯にわたって誰もが学習でき、地域の歴史や文化、自然を大切にした誇りあるふるさとづくりを進めます。

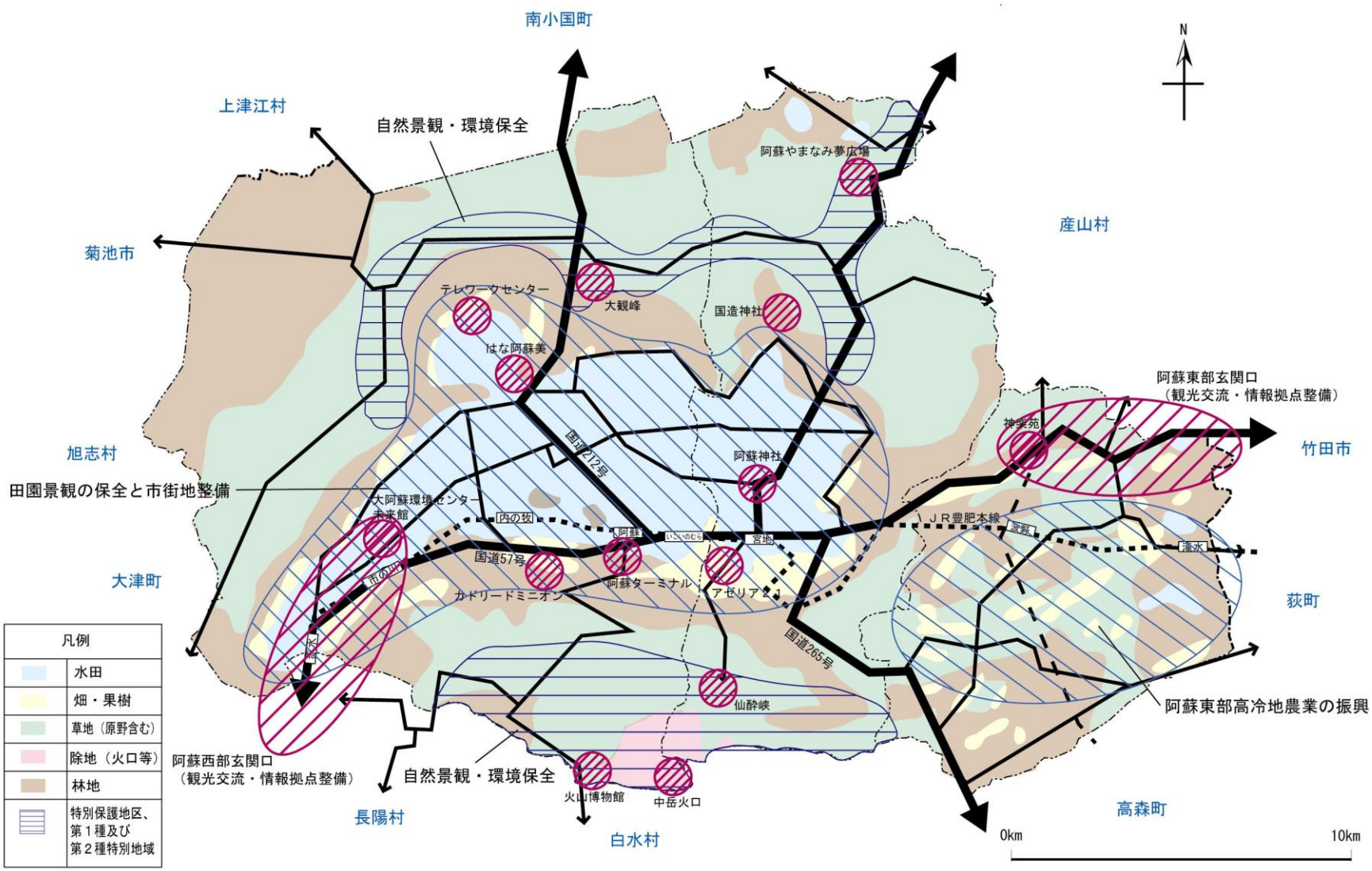
7.住民参加による自立したまちづくりの推進

基本的人権の尊重のもと、情報公開や住民との意見交換の場づくりなど、住民とともに新しいまちづくりを進めていきます。また、地域ごとに住民がともに支え合うまちづくりを進めます。

女性が産業振興や福祉、教育などのあらゆる分野に参画し、男性とともに能力を十分発揮できるように、男女共同参画社会の実現に向けて、社会における意識改革や就労環境の整備に努めます。

２．土地利用の方針

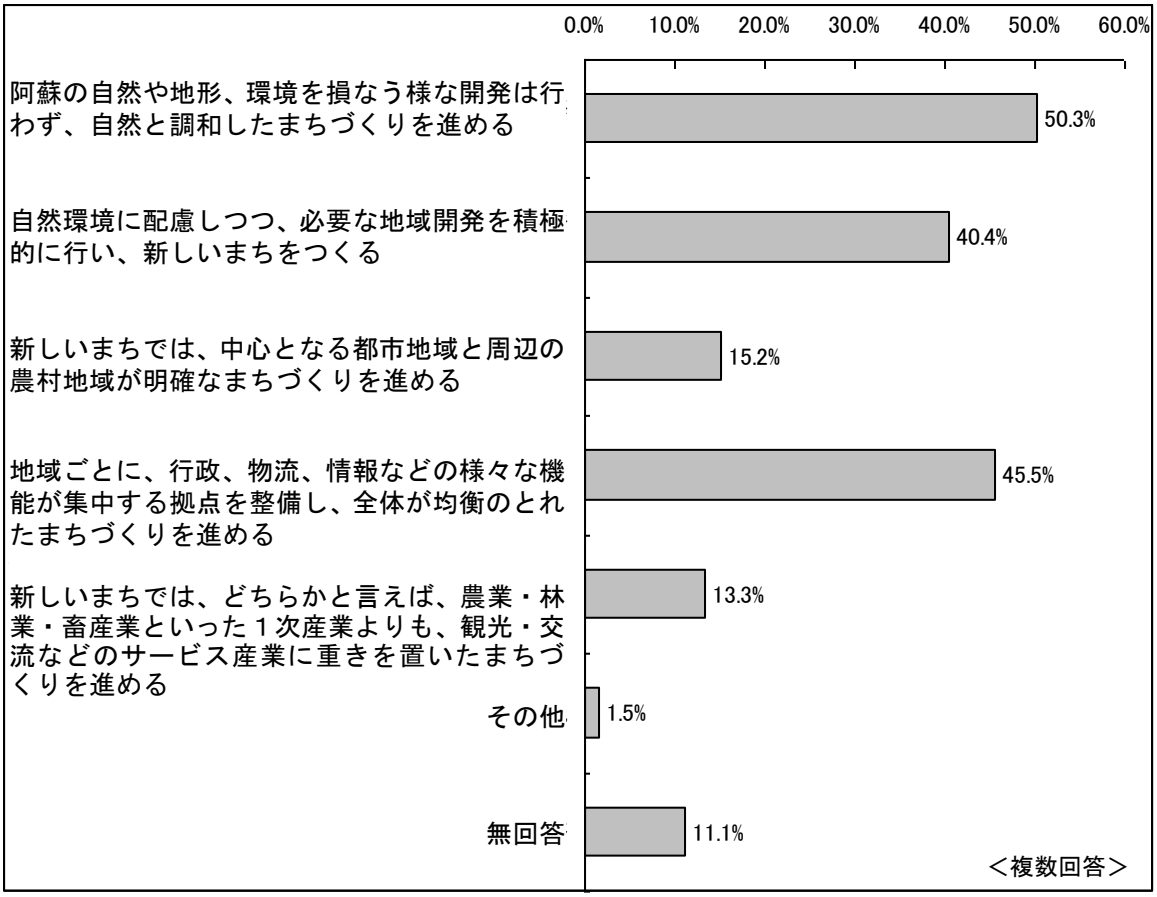
阿蘇の自然景観を構成する草原･森林の保全と国立公園における一定の指定域の保護、及び田園景観を構成する農地及び農村集落、市街地等の調和する発展を推進します。また、適切な都市計画区域の地域指定等について検討します。



土地利用概念図

住民アンケートより　―新市の将来イメージと土地利用の方向―

新市の将来イメージでは、アンケート結果の上位には、「自然と調和したまちづくりを進める」「地域ごとに拠点を整備し、全体が均衡のあるまちづくりを進める」「自然環境に配慮し、必要な地域開発を行う」の３つが挙がりました。このような結果から、新市の土地利用では「自然と調和し、地域の特色を活かした拠点を形成するとともに、全体にバランスのとれたまちづくり」を進めていきます。



３．主要指標の見通し

（１）総人口

平成 17・22・27 年の国勢調査結果を用いた推計では、令和７年の総人口は約 24,000 人まで減少すると想定されます。

このため、既存の産業の育成や新産業の創出、都市機能の集積による魅力あるまちづくりを進めて、目標年次の令和７年には人口 25,000 人となるよう計画的に取り組みます。

（２）年齢別人口

令和７年の目標人口 25,000 人では、年齢別人口は、年少人口が 2,900 人、生産年齢人口が 12,000 人、老年人口が 10,100 人と想定されます。

◆総人口及び年齢別人口推計と目標人口

階　級	2005年(H17)国調			2010年(H22)国調			2015年(H27)国調		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0～14歳	1,985	1,877	3,862	1,778	1,665	3,443	1,696	1,543	3,239
15～64歳	8,261	8,572	16,833	7,820	8,089	15,909	7,006	7,137	14,143
65歳～	3,548	5,393	8,941	3,636	5,450	9,086	3,963	5,670	9,633
合　計	13,794	15,842	29,636	13,234	15,204	28,444	12,665	14,350	27,018

（人）

階　級	2020年(R2)推計			2025年(R7)推計			目 標 人 口		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0～14歳	1,526	1,409	2,935	1,434	1,314	2,748	1,500	1,400	2,900
15～64歳	6,248	6,245	12,493	5,617	5,588	11,205	6,100	5,900	12,000
65歳～	4,264	5,872	10,136	4,304	5,735	10,039	4,300	5,800	10,100
合　計	12,038	13,526	25,564	11,355	12,637	23,992	11,900	13,100	25,000

※国立社会保障・人口問題研究所による推計

（３）世帯数

令和７年の目標人口 25,000 人では、世帯数は 10,000 世帯と想定されます。

◆世帯数の推計と目標世帯数　（世帯）

区　分	平成17年国調	平成22年国調	平成27年国調	令和7年推計	目　標
新　市	9,932	10,100	10,078	9,977	10,000

※時系列法による推計

（４）就業人口

令和７年では、全就業人口は 13,130 人と想定されます。

◆産業別就業人口の推計と目標就業人口　（人、%）

区　分	平成17年国調		平成22年国調		平成27年国調		令和7年推計		目標就業人口	
	実 数	構成比	実 数	構成比	実 数	構成比	実 数	構成比	実 数	構成比
全就業者数	14,564	100.0%	13,921	100.0%	13,516	100.0%	13,126	100.0%	13,130	100.0%
第1次産業就業者数	2,740	18.8%	2,414	17.3%	2,411	17.8%	2,408	18.3%	2,400	18.3%
第2次産業就業者数	3,069	21.1%	3,086	22.2%	2,997	22.2%	2,911	22.2%	2,900	22.1%
第3次産業就業者数	8,755	60.1%	8,421	60.5%	8,108	60.0%	7,807	59.5%	7,830	59.6%

※時系列法による推計

1）分類不能分は、構成比により按分して含む。